

伴東小学校 田植え



安佐南区の下向町内会は、伴東小学校の米づくり学習に30年以上にわたり協力しています。今年も6月2日に町内会の森川宣彦さんの水田で、5年生76名が、町内会の農家の方々の指導を受けながら、田植えを行いました。伴支店からも中村安博支店長と沖野勝治営農指導員が参加し、沖野指導員がお米の種類や管理などの説明をしました。

矢野幼稚園 サツマイモ植付け

6月15日、安芸区の矢野幼稚園の園児32名は、幼稚園前の圃場でJAの石倉悠希営農指導員から「舟底植え」を習い、おいしくなるよう念じながらサツマイモの苗を植えました。畑は隣接する小学校から借りたもので、キュウリやトマトなども栽培しています。2年前の西日本豪雨災害で流され土砂に埋もれましたが、地域住民や保護者の方たちによって再生整備され、園児たちは今年も野菜づくりを楽しんでいます。矢野支店の山本哲男支店長は「地域のためにJAができることを」と、苗50本を提供しました。



山本幼稚園 ジャガイモ収穫

安佐南区の山本幼稚園の年長園児48名は、6月23日に地元農家の大西克廣さん・弘子さん夫妻の畑で、ジャガイモの収穫を行いました。地域の方々や祇園支店の中村仁美支店長、地区担当の川本一水営農指導員も加わり、泥だらけになってジャガイモ掘りを楽しみました。それぞれ自分が掘り出したジャガイモをリュックサックいっぱい詰めて大事に持ち帰り、年少組さんにもおすそ分け。「お弁当チャレンジ」と題し、各家庭でお弁当にして、また園に持ち寄ります。大西さんは「お父さんお母さんにおいしく料理してもらって、お弁当にして持ってきてね」と呼びかけました。



地域と生産者とJA広島市が一体となって食農教育活動

地域の小学校や保育園・幼稚園と地元農家、JA広島市などが協力して、子どもたちに農業を体験し学んでもらう活動を各地で行っています。

可部保育所 サツマイモ植付け

安佐北区の可部保育所の園児84名は6月4日、サツマイモの苗1,000本を植え付けました。園児たちは「コロナに負けないお芋をつくらう」と声を合わせて作業を始めました。地元農家の香川義元さんが休耕田を提供して始めたこの行事は、今年で6年目。地域の方々も協力してお世話をしています。また、可部支店はふれあい活動の一環として、熱中症対策にと、「JAひろしまの藻塩はっさく水」を佐々井信光支店長が持参し寄贈しました。



矢賀小学校 矢賀うり植付け



東区の矢賀小学校では地名の付いた地元の伝統野菜「矢賀うり」を学ぼうと6月15日、2年生61名が地元生産者の飯田澄雄さんから指導を受けながら、矢賀うりの植付けを行い、JAの向井健営農指導員も矢賀うりの特徴や歴史などについて説明しました。苗は同校の教員や東区役所の担当者が飯田さんの圃場で播種したもので、児童たちは自粛期間中には「野菜をおいしく育てるまほう」という宿題をこなすため、栽培のコツを保護者に聞いたり、教科書やインターネットで調べたりしてこの日を迎えました。

大芝小学校 田植え

西区の大芝小学校では、毎年5年生の総合学習の時間に、校内に設置した田んぼでの米づくりを行っており、横川支店では、毎年同校の取り組みに協力し、苗を提供しています。6月24日には、地区担当の小田祐司営農指導員と営農振興課の三谷哲職員から指導を受けながら、5年生76名がヒノヒカリの苗を校内の田んぼに手植えをしていきました。

